

「排せつ介助の中で出来る生活リハビリ」

2年7組15番 名前 加藤 立

2年7組33番 名前 藤原 茉優

実習施設：朋松苑

問題設定

- ①実習中に職員の方に生活リハビリについて教えてもらった。
- ②生活リハビリとはトイレに誘導するときに車いすでトイレまで自走してもらったり手引き歩行でトイレに連れて行ったり、トイレ最中手すりに掴まり立位を保ってもらうなど。
- ③実際にこの施設では生活リハビリを実施したことによってADLが向上した利用者が居たため興味をもった。
- ④観察している中で特に排泄介助場面で、生活リハビリを実施しているところを見ることができたので排泄介助の生活リハビリについてまとめた。

介護場面の実際

【Aさん】⇒普段は車椅子だが、手引き歩行でトイレ誘導を行っている利用者。	① 尿意・便意を確認する。
	② トイレの入り口まで車椅子で自走してもらう。
	③ トイレまで手引き歩行。
	④ 手すりに掴まって立ってもらい、職員がズボンを下ろす。
	⑤ 排泄後、手すりに掴まって立ってもらい職員が陰部を拭きズボンを上げる。その後手引き歩行で車椅子まで戻ってもらい、自走して戻ってもらう。

【Bさん】⇒紙おむつ使用で、ベッド上でおむつ交換を行っている利用者。	① おむつ交換をすることを伝える。
	② おむつを外して左側臥位になってもらい、その姿勢をキープしてもらう。
	③ その間に速やかに陰部洗浄とおむつをセットする。
	④ 右仰臥位になってもらいその姿勢をキープしてもらい、おむつを合わせる。
	⑤ 仰臥位になってもらいおむつ交換を終える。

排せつ介助で出来る生活リハビリ

【Aさん】

- ②⇒車椅子で自走してもらうことで、三角筋前部・中部・後部, 上腕二頭筋, 上腕三頭筋, 腕橈骨筋, 尺側手根屈筋, 大胸筋がきたえられる。
- ③・④⇒手引き歩行と手すりに掴まって立位保持を行ってもらうことで歩行に必要な筋

肉を鍛える。

【Bさん】

- ②・③⇒掴んで引き寄せることから懸垂を参考に腕や広背筋、大円筋が鍛えられるのではないかと考える。

【考察】

このように生活リハビリを取り入れることで、知らずの内に生活に必要な筋力を鍛えADLの低下を抑えることができるのではないかと考えた。個人差もあるが、ある利用者は依然ベッド上でのおむつ交換だったが排せつ量が少なかった為、時間と手間がかかるがトイレ誘導にしてみたところトイレでの排せつが確認された。それ以来トイレ誘導をすることで徐々に車椅子から歩行が可能になっていった。このことから生活リハビリはADLの維持だけでなく向上にも効果的だと考えられる。さらに集団で行うリハビリとは違いまとまった時間を必要としないためいつでも行える。生活リハビリは排泄介助だけでなく入浴や食事、移動するなど日常生活のどのような場面でも利用者の状態に合わせ行うことができる。と考える。

ある職員さん曰く

「寝たきりだからおむつ、立てるからトイレではないんだよ」と答えていた。

利用者の見た状態の判断だけ等では利用者のためにはならないと言うことが職員の方のその一言で考え方が変わった。利用者の可能性を我々が引き出し、職員の都合だけで判断せずニーズを尊重し実践することで利用者理解にもつながると考えた。

参考文献

「座幅に着目した自走式車いす駆動における上肢筋活動の評価」

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110006448886>



排せつ介助の中で出来る生活リハビリ

2年7組 15番 加藤 立
2年7組 33番 藤原 茉優

朋松苑

Q、何故この問題に取り組んだか？



- ①実習中に職員の方に生活リハビリについて教えてもらったから。
- ②実際にこの施設では生活リハビリを実施したことによってADLが向上した利用者が居たため興味をもったから。
- ③観察している中で特に排泄介助場面で、生活リハビリを実施しているところを見ることができたので生活リハビリに興味を持ち排泄介助時で出来る生活リハビリについてまとめる事にした。

介護場面の実際

* Aさんの場合

- ①尿意・便意を確認する。
- ②トイレの入り口まで車椅子で自走してもらう。
- ③トイレまで手引き歩行。
- ④手すりに掴まって立ってもらい、職員がズボンを下ろす。
- ⑤排泄後、手すりに掴まって立ってもらい職員が陰部を拭きズボンを上げる。その後手引き歩行で車椅子まで戻ってもらい、自走して戻ってもらう。



介護場面の実際

* Bさんの場合

- ①おむつ交換をさせていただいたため了承を得る。
- ②おむつを外して左側臥位になってもらい、その姿勢をキープしてもらう。
- ③その間に速やかに陰部洗浄とおむつをセットする。
- ④右側臥位になってもらいその姿勢をキープしてもらい、おむつを合わせる。
- ⑤仰臥位になってもらいおむつ交換を終える。

排せつ介助の中での出来る生活リハビリ

Aさんの場合

- ②⇒車椅子で自走してもらうことで、三角筋前部・中部・後部、上腕二頭筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋、尺側手根屈筋、大胸筋がきたえられる。
- ③・④⇒手引き歩行と手すりに掴まって立位保持を行ってもらうことで歩行に必要な筋肉をきたえる。

Bさんの場合

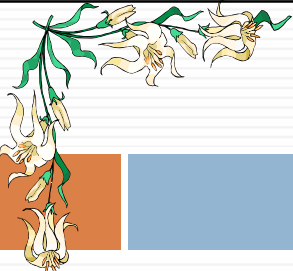
- ②・③⇒ベッドの柵を掴んで引き寄せることから懸垂を参考にし腕や広背筋、大円筋が鍛えられるのではないかと考えられる。





—考察—

- このように生活リハビリを取り入れることで、知らずの内に生活に必要な筋力を鍛えADLの低下を抑えることができるのではないかと考えた。
- 集団で行うリハビリとは違ってまとまった時間を必要としないためいつでも行える。
- ある職員さん曰く
「寝たきりだからおむつ、立てるからトイレではないんだよ」と答えていた。
- 利用者の可能性を我々が引き出し、職員の都合だけで判断せずニーズを尊重し実践することで利用者理解にもつながると考えた。



お礼の言葉

実習先の職員の方利用者みなさん先生方、実習15日間色々相談に乗ってもらったなど有難うございました。この貴重な体験を大事にし、次の三年の実習に繋げられるように頑張ります。

ご清聴ありがとうございました！！

^,,^ ^,,^

(,,・▽・) (,,・▽・)

~(_u,u/ ~(_u,u/

